

三本松沢中俣

L_上

一九八一年八月三〇日

九時四〇分、下降開始。平凡な下りで、満足な滝もないまま、左俣出合到着。そこから少し下って、今朝遊行していった右俣出合。もう滑谷沢本流は目の前であった

右俣には滝やナメが多いのに、左

三本松沢右俣

L_中

一九八一年八月三〇日

滑谷沢を下り、滝の下をくぐって支流の三本松沢に入る。入るとすぐナメ。吾妻の大滝沢のミニサイズとあったところ。二つのナメを越える

俣はつまらなく物足りなかった。尾

根一本の違いで、こんなに違ってくるとは……………。(記・……………)

「タイム」 下降開始(九:四〇) ↓滑

谷沢本流(二:二五)

とすぐ二俣。右俣に入る。

右俣に入ると、まもなく滝が出てくる。沢幅も狭く、水量もたいしたことがないので、スケールの大きな

ものはない。しかし、すべて直登できるので楽しい。

ナメを過ぎると、F7五段が出てくる。白糸の滝といったところで、登れないこともないが、シャワーがいやで捲く。

この上にも滝が続く。下流のそれより大きな滝である。F9、10、11と三段になって落ちていく。この沢の核心部といった所である。この上にも滝は続く。

水量も少なくなり、ヤブがかぶってきて、急傾斜となってくる。やがて水が涸れ、なおもやぶをこぐと、栗子山直下の広い尾根に出る。木は茂っているが、木に登ると吾妻連峰がくつきりと見えた。

(記・……………)

「タイム」 三本松沢出合(七:一五)

↓右俣終了(九:四〇)

